

なは地域貢献便り10月

なは地域貢献便りとは、那覇市内の社会福祉法人等施設が、地域の応援団として取り組む情報誌です。

第1回那覇市社会福祉法人等施設連絡会(8月5日)は、コロナ感染拡大防止の観点から書面による承認で、創刊号発行し、連絡会の構成施設を紹介しましたが、2回目以降は下記の通り行政区毎に開催されました。

- 第2回(首里地区)** 9月14日 ① ゆうなの会 ② 若杉福祉会 ③ 葦の会 ④ 偕生会 ⑤ からし種の会 ⑥ 那覇市社協
- 第3回(真和志地区)** 9月24日 ① おきなわ共生会 ② 繁多川公民館 ③ 城南会 ④ 彩風の杜 ⑤ 乙羽会 ⑥ 日本赤十字社沖縄県支部 ⑦ 那覇市社協
- 第4回(本庁地区)** 9月28日 ① そてつの会 ② ポプラ福祉会 ③ うるま福祉会 ④ 正清会 ⑤ 雅福祉会 ⑥ ハーネス ⑦ 那覇市社協



— 第2回首里地区の構成施設で開催された連絡会の報告 —

「社協と社会福祉施設等が連携した地域課題の対応強化について」講話



第2回那覇市社会福祉法人等施設連絡会(首里地区)の様子

小規模法人ネットワーク事業 ちゅいしいじい事業 について概要

1. 目的 山積する福祉課題に対して社会福祉法人等の創意工夫に基き地域貢献が求められている。本事業は、地域の様々な福祉ニーズに対応した地域の福祉サービスの充実を目指し、単独で発揮しにくい地域貢献の取組を複数法人が連携したネットワークの構築を推進します。
2. 事業内容 ① 法人間連携の連絡会の開催 ② 複数法人の連携による協働事業の立ち上げ ③ 福祉・介護人材確保定着の取組推進 ④ 社協 CSW との連携



沖縄県社会福祉協議会 地域福祉部主任 大城利公氏



偕生会指定管理 石嶺児童園 園長 上原裕氏

- ・発達障害の問題に対し、専門機関と連携し勉強会をしてみようか。
- ・職員、専門職のノウハウを地域に共有したい。
- ・グランドゴルフで会場を地域の関係者に提供



からし種の会 理事長 棚原信子氏

- ・まち協と社協とのつながりから取り組みを考えている。
- ・地域のために何ができるかを、常に考えて活動していきたい。
- ・クッキー等を提供し、地域と繋がってきたい。

- ・認知症サポーター養成講座を依頼があれば開催
- ・ホーム喫茶(月1回施設を地域に開放し、食事を楽しむ)
- 集まりからボランティアや地域の方の居場所となっている。
- ・高齢者施設での職場体験を受け入れることで、社会復帰できるきっかけづくり。
- ・地域講話 栄養士などが食育について話していく。



ゆうなの会 老人ホーム大名法人運営 次長 金城満氏



若杉福祉会 理事 屋宜眞氏

- ・大名児童館では無料塾、食事の提供・大名まち協の事務局として連携。
- ・地域で世代間交流のため、星空、音楽鑑賞、コミュニティづくり
- ・卒園してからつながりが重要。
- ・地域で育つ子を地域で育てる地域づくり、環境づくりを拡げたい。
- ・障害分野・高齢分野にも取り組んでいきたい。

- ・法人で唯一の社会医療法人。離島での医療もカバーしている。
- ・石嶺まち協に所属している。
- ・グループホームから認知症高齢者が徘徊。子供から大人まで、地域のネットワークで無事に保護できた。ネットワークの大切さを知った。
- ・石嶺中学校で福祉体験を実施している。→地域の将来を担う、福祉教育
- ・年金支給日に、健康相談、血圧測定→男性が病院に行っていない事が多い。
- ・医師のノウハウを地域に還元したい。
- ・児童精神の先生が勉強会を地域と連携して開催出来たらいいのでは。



社会医療法人葦の会 地域貢献室 室長 名真真朝春氏



那覇市社協 常務理事 宮城哲哉氏

食糧支援運動が広がりを見せているが、地域にもれなく浸透させていくためには、身近な地域での福祉拠点が求められている。



相談援助実習生4機関から6名の学生が、福祉人材育成の一環で多職種連携の在り方を学んだ。



那覇市社協 会長 新本博司氏

今回の会は各社会福祉等施設と社協がつながったことが取り組みを進めるうえで大きな成果になった。



那覇市社協 CSW 主任 仲程大輔氏(左) CSWと社会福祉施設の連携の意義を説明 首里地区担当主事 神田貞幸氏(右) 意見交換進行

